

キャリア教育 各学校の実践

〈多古町立久賀小学校〉

6年「ゆめにむかって」

今年度は町内の事業所に御協力をいただき、3年ぶりに職場体験学習を行うことができました。実際の作業を通して、子供たちなりにそれぞれの職業の「働くやりがい」が見えてきました。

- セイミヤで、僕はニンジン（ニンジン）を袋に詰める作業をしました。まず、向きが上下上になるように三本ずつ詰めました。次に、袋の開いている部分をとじる作業に移りました。



【品出しの体験】

四角いセロハンテープの改良版みたいな物に、とじたい部分を通すと、一定の長さでまで行ったらそのまま切れ、やっていて楽しい作業でした。最後に、値段が書いてあるシールを貼る作業を行いました。袋に詰めたニンジン（ニンジン）をその機械に乗せると値段とバーコードが書いてあるシールが出てきてびっくりしました。それをニンジン（ニンジン）が詰まっている袋の右下に貼っていき、それを七箱分繰り返しました。これらの体験を通して、セイミヤで働いている人は、品物を並べる作業やレジ以外にも、裏で立ちっぱなしでやる作業もあって、大変なんだなと思いました。

- 私は、多古カントリークラブで職場体験をしました。はじめに、お客さんにコースの説明と注意事項を話しました。最初はお手本を聞いて話しましたが、言葉をかんでしまいました。ですが、お客さんは、温かい目で見てくださり、「上手だね。」と褒めてくれたので嬉しかったです。

担当の人と館内を見た後は、カートをきれいにする仕事を任されました。帰ってきたお客さんに「お帰りなさいませ。」と言い、カートの中にあるゴミ箱と、タバコを入れる場所をチェックして、あったらそのゴミを捨て、お客さんのクラブを拭く作業です。この作業を時間まで行いました。これらの仕事を体験してみて、お客さんへの丁寧な対応など、ゴルフが好きだからこそ出来る事なのだと思います。

〈多古町立多古第一小学校〉

5年「多古町PR大作戦～多古町の農業を学ぶ～」

J Aかとりたこ経済センターの方をお招きし、多古町の農業について講話をいただきました。多古町で生産している野菜の種類や出荷量、害獣対策などを教えてもらい、理解を深めました。農家の方の工夫や苦労を知ること、農業の魅力や大切さを感じることができた良い学習になりました。

- 農家の方は、収穫するまでに野菜を守ったり肥料をあげたりと大切に育てていることがわかりました。

【J Aの方の講話を聞く児童】

がたくさんとれるのかがわかりました。

6年「大先輩に教わろう」

多古ロータリークラブの方々や飲食店、農家の方が、これまでの経験を生かして、よりよく働くための工夫や働くことの意味、大切さを教えてくださいました。将来の自分を考える貴重な体験となりました。

- 自分の好きなことや得意なことを将来の仕事につなげると、うまくいくということがわかりました。
- 人付き合いが上手にできなければ、会社は成り立たないということがわかりました。



【真剣に話を聞く児童】

〈多古町立中村小学校〉



【パンを作っている児童】

6年「夢・仕事ぴったり体験」

児童一人一人が社会人・職業人として自立していくために必要な勤労観・職業観などを育てることを目的とし、各事業所にて職場体験をさせていただきました。

- 将来自分が就きたいと思っている職業の体験をすることができ、とてもよかったです。
- 接客することは不安で、始めは緊張しましたが、担当の方からポイントを優しく教わり、落ち着いて接客することができました。
- 働くことの大変さや楽しさを学ぶことができました。

5・6年「夢に向かって（大先輩に学ぼう）」

地元で働く大先輩から、仕事の楽しさや厳しさを学び、「学び続けたい」「働き続けたい」という気持ちをもつことを目的とし、講師の方からお話をお聞きしました。

- 生コンのことについて詳しく教えてもらいました。普段聞くことができないことを聞いて、たくさん驚きがありました。
- 将来について、どんな職業に就きたいか、もう一度考えさせられました。
- 「みなさんにはたくさんの可能性がある」という言葉に、勇気づけられました。



【ロータリアンの話を聞く児童】

〈多古町立多古中学校〉

1年「道セミナー」

地域の教育力を活用し、文化的教養の向上と、中学生と地域住民との交流の深化を図ることを目的として道セミナーを行っています。今年度も、成田空港を発着する航空会社の方を講師としてお迎えし、講話をいただきました。

- 今回の講話を聞いて、成田空港の仕事には大変な一面もあるが、その分の達成感も味わえるということを学ぶことができました。「ありがとう」の感謝の言葉を聞くことのできる仕事に興味がわきました。



【道セミナーの様子】

1年「人セミナーⅠ」

多古町で働いている方々をゲストとしてお招きし、仕事について講話をいただく人セミナーを行っています。今年度は6名の多古町民生委員の方々から、働くことの意義や人生観を学ぶことができました。

- 私は今回の人セミナーを通して、仕事に関しての考え方がより広がりました。それは、自分では考えられなかった視点でのアドバイスをいただけたからです。いただいたアドバイスをこれからの進路に生かしていきたいです。



【人セミナーⅠの様子】

2年「職場体験学習」

2年生では、11月1日・2日の2日間で職場体験学習を実施しました。期間は短かったものの、「職業」や「将来」について考える良いきっかけになったと感じます。

- 私は道の駅多古「あじさい館」で職場体験をさせていただきました。レジやレストランの仕事を初めて体験し、挨拶の大切さがわかりました。たくさんのお客さんを接客して、お店の方はこんなに大変な仕事をしていただんだということも学びました。
- 私は妙光寺で職場体験をさせていただきました。「清掃は、角をきれいにしようすると、自然に全体がきれいになっていく」と教えていただき、毎日の学校の清掃活動で試してみたいと感じました。また、汚い所を見て見ぬふりをしないようにしていきます。



【職場体験の様子】

中学校3年生は進路決定に向けて、1・2年生は自分の将来の夢について考える学年です。将来の自分の姿をイメージし、進む道のりについてしっかりと考えられるように、これからも指導していきます。

多古町キャリア教育事業

《花交流》



＜久賀小学校3・4年＞

多古高校園芸科の生徒さんに教えていただきながら、サイネリアの花の種をまきました。また、多古高校にも伺い、花を鉢に移し替える作業も一緒に行いました。サイネリアの栽培を通して、貴重な交流を行うことができました。

- ぼくは、サイネリアの種がとても小さいことにおどろきました。これからきれいに花が咲くことを楽しみにしています。
- 種が小さくて、植えるのがとてもむずかしかったけれど、高校生のお兄さんとお姉さんがやさしく教えてくれたので上手にできました。またいっしょに花交流をしたいです。



【プランターに種をまく児童】

《英語交流》



＜中村小学校＞

多古高校の生徒3名を迎え、一緒に英語学習を行いました。多古第一小、久賀小でも同様に5年生児童が英語学習を通して多古高校との交流事業を行いました。

- 高校生と英語で会話をしました。クリスマスにほしいものを質問したら、優しく答えてくれてうれしかったです。
- はじめは緊張していたけれど、ワードサーチゲームで高校生が活動に入って教えてくれたので安心しました。
- 英語で高校生と一緒にクリスマスカードを作りました。家で家族に渡したいです。英語や外国のことを勉強するのが楽しいので、将来のためにたくさん英語を覚えたいと思います。



【高校生と一緒に学習する児童】

多古町教育研究協議会 キャリア教育研究部 広報誌

多古町キャリア通信

研究部長あいさつ「時代に合ったキャリア教育をめざして」

多古町教育研究協議会キャリア教育研究部 部長 名上 健一

昨年度、GIGA スクール構想による児童生徒へのタブレットの「1人1台端末」が配付され、今年度本格的な活用が各学校で行われています。このタブレットを含めた ICT 機器をいかに活用し児童生徒の学習環境や生活環境の効率化・有効化に繋げていくかが、今の学校教育の大きな課題となっています。現在多古町では、タブレットの家庭持ち帰りが始まり、タブレットによる自主学習が進められるようになってきました。しかし、ある調査によれば全国的には、まだ約3分の1程度の学校では家庭への持ち帰りは行われていません。非常に残念なことです。

ところで、このタブレット等1人1台端末と高速ネットワークという学習基盤がなぜ必要になってきたのでしょうか。それは、この学習基盤があることで児童生徒は、自分自身の好奇心やテーマに基づいて、それぞれのペースで学びを進められるからです。

教師側もダッシュボード等を通して学習状況が可視化され、一人一人に目が届くようになり、支援が必要な児童生徒には適切なタイミングで助言したり、児童生徒の興味関心を活かした自主的自発的な学習を促したりすることが容易になります。教師一人ができることは限られますが、端末を使えば指導の個別化、学習の個性を実現することになります。さらに、児童生徒も互いの学習が見えるようになりますから、協働的な学びも推し進めることができます。これがまさに2021年1月に中央教育審議会が答申した『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」であり、ICTを最大限に活用し個別最適な学びと協働的な学びの一体化につながり、さらには学習指導要領の基本方針である「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善にもつながっていきます。

以上が今現在の目指すべき学校教育の方針であり、その一端を担うキャリア教育の方向性を示すものです。超情報化社会を迎えた今、時代の急激な変化に負けないように、児童生徒が自分の生きる時代を「生きていける力」「生き抜ける力」を身に付けさせることが大事です。そのためにも「時代に合ったキャリア教育の推進」を今後も検討し進めていきたいと考えます。

キャリア教育研究部 広報班・調査班より

キャリア教育とは、子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するための力を身に付ける教育を行うことです。教育活動内にある、児童・生徒のキャリア発達を促すのに有効な諸要素—学習内容や指導方法、生活・学習習慣、体験的な活動—を意図的かつ相互的につなげながら、学校の教育活動全体で進められています。

新型コロナウイルスの流行により、昨年度まで実施できなかった小学生の「ゆめ・仕事ぴたり体験」と、中学校の「職場体験学習」を今年度3年ぶりに実施しました。コロナ禍の中、校外学習の受け入れや学校での講話など、御協力いただいた事業所、関係各所の皆様には、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

調査班では、今後も受け入れてくださる事業所等の方との連携を図り、キャリア教育を充実させていくため、例年、職場体験に御協力をいただいた皆様に向けてアンケートを実施しております。また、来年度以降に向けて、「教職員と子供たちと事業所をつなぐ」ために、協力いただける事業者の皆様への連絡調査や、実施可能な活動内容の把握を行いました。調査を行う中で、新規事業者の皆様とも連絡をすることができ、調査班の資料をもとに、学校でも新たな活動が生まれることを期待しています。